

# 平成28年度 自己改革の取り組み成果と 組合員アンケート結果

この度実施いたしました「組合員アンケート」にご協力いただきました皆さま誠にありがとうございました。アンケート結果についてご報告させていただきますとともに、今後の事業に反映し、自己改革の実践につなげてまいります。

## 調査概要

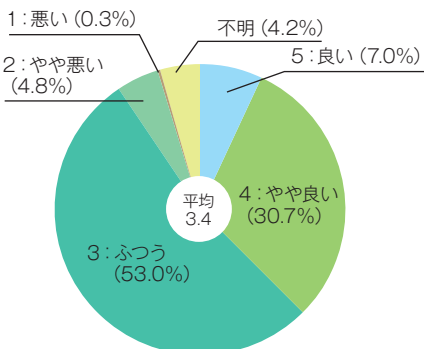
- 調査対象 正組合員(認定農業者・農業法人、集落営農組織、部会の代表者・総代)・准組合員合計1,000人
- 調査目的 第7次中期経営計画1年目(平成28年度)に対する組合員の満足度を把握し、見えてくる課題を事業に反映し、自己改革の実践につなげるため。
- 調査期間 平成29年4月10日～21日
- 調査方法 常勤役員をはじめ部長、支店長など役職員が組合員宅を訪問し、聞き取り調査を実施。

## I

## 農業者の所得増大の実現

### 自己改革内容

### マーケットインにもとづく生産・販売事業方式への転換



5点満点評価(正組合員730名回答)

#### ●ファーマーズマーケットを核とした販売力の強化 直売取扱高5.8億円(5.5億円)

平成28年9月、大垣駅前ファーマーズマーケット中部店を新築移転オープンし、『にしみのブランド』のアンテナショップとして地元農産物の魅力を発信しました。ファーマーズマーケット全7店舗の来客数が前年より3.5万人増加しました。

#### ●実需者ニーズにもとづく主食用米の生産拡大 新品種の作付面積5.8% (5.0%)

業務用の多収性良食味米品種「縁結び」、「ほしじるし」の栽培に切り組み、いずれの品種も高い食味値(縁結び:平均74、ほしじるし:平均78)が見られました。販売においても実需者との契約販売により農業者所得の向上を図ることができました。

取り組み成果 ( )は平成28年度計画

#### ●飼料用米の生産拡大 作付面積1,410% (1,190%)

担い手参集会議、農事改良組合長会などで飼料用米への作付転換を提案し、全区域で作付面積が増加しました。

#### ●実需者ニーズにもとづく園芸作物の生産及び有利販売の拡大 青果物取扱高38.5億円(40.0億円)

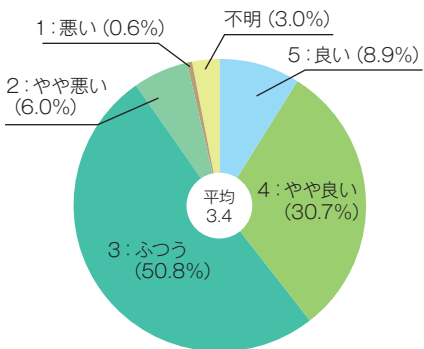
市場関係者等との意見交換会を部会単位で開催。市場の価格変動に左右されない量販店等との契約栽培を未導入部会へ提案しました。

#### ●加工・業務用野菜の生産拡大 作付面積キャベツ21% (20%)・タマネギ6% (6%)

キャベツは機械による移植、大型鉄コンテナによる出荷体系を確立し作業軽減を図りました。全区域で合計14名の新規生産者が増えました。タマネギは大型鉄コンテナを活用し、収穫作業時間の大幅な削減を図りました。

### 自己改革内容

### 付加価値の増大と新たな需要開拓への挑戦



5点満点評価(正組合員730名回答)

#### ●6次産業化による付加価値増大 食材納品、加工品販売の実施(食材納品、加工品販売)

管内のタマネギを100%使用したドレッシングを開発したほか、パウムクーヘン(米粉・お茶・メロン・かぼちゃ・みかん・イチゴ味)、「焼き麩」(かぼちゃ味)、「柿寒天ゼリー」を販売しました。

#### ●畜産の生産販売維持・拡大

##### 直売取扱高13億円(9億円)

全農預託事業の活用を拡大し、肉牛(枝肉)の出荷頭数が920頭となり、前年より348頭増加しました。

取り組み成果 ( )は平成28年度計画

#### ●多様なニーズに対応した販売拡大 直販取扱高5.1億円(3.5億円)

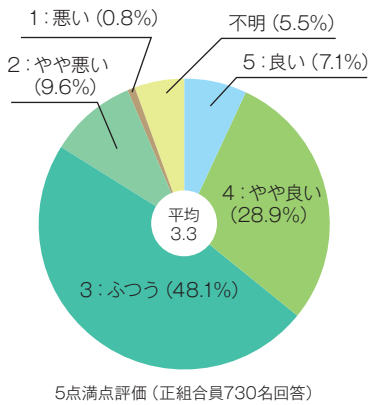
米販売について全農岐阜への委託販売だけでなく、卸売業者7社へ直接販売を行いました。直接販売数量は、全集荷数量の2割に相当する45,600俵となりました。

#### ●米の品質向上に向けた取り組み 主食用米食味値81(80)

全区域で実証圃による良食味米の生産方法確立に向けた試験を行いました。食味コンクールを実施し、分析機械(食味計、味度計)を導入しました。

## 自己改革内容

# 生産資材価格の引き下げと低コスト生産技術の確立・普及



## 取り組み成果 ( )は平成28年度計画

●**担い手への弾力的な対応によるコスト低減**  
大口奨励金支払額4,131万円 (3,800万円)  
肥料・農薬の年間購入金額に応じて、奨励金を支出し、担い手や農組合等に対する生産資材のコスト削減につなげました。

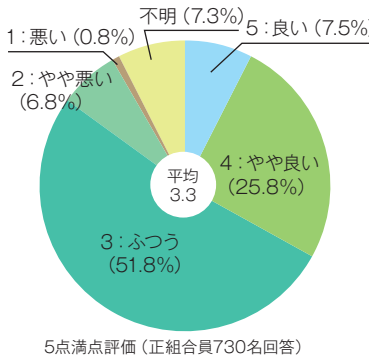
●**低コスト生産技術の確立・普及**  
水稲直播面積214㊦ (120㊦)  
海津区域を中心に全区域で提案した結果、前年に比べ面積が104㊦増加しました。  
新たな低コスト技術として「密播疎植栽培」の現地試験を安八、養老区域で実施し、一定のコスト削減の結果が得られました。

●**農地中間管理事業等を活用した担い手経営体への農地集積・集約**  
担い手への農地集積率59.7% (57.0%)  
担い手同士の話し合いや集落座談会等の話し合いに参加し、農地集積を進めました。  
利用権設定による農地集積を進め、集積率が向上しました。

●**農産物の販売コストの低減**  
同一品目協議会設立 トマト協議会の設立準備段階(提案・検討)  
販売プロジェクト会議において、同一品目協議会の設立を協議し、トマトの協議会を設立する方針を決定しました。  
現在、いちご、ブロッコリーの協議会が設立されており、トマトが設立されれば3協議会となり、販売コストの低減につなげていきます。

## 自己改革内容

# 担い手経営体のニーズに応える個別対応



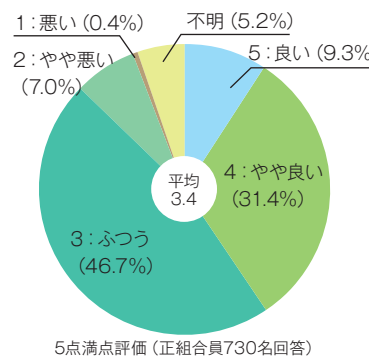
## 取り組み成果 ( )は平成28年度計画

●**担い手経営体に出向く体制の整備・拡大**  
担い手への訪問306件 (1担い手1提案以上)  
TACの訪問活動による主な提案内容  
水稲新品種(縁結び、ほしじるし等)の栽培提案  
増収、低コスト技術の提案、経営管理支援  
加工業務用野菜の取組提案、帰農塾の開催 など  
農作業事故等への備えとして、水田担い手200経営体に対して支店共済担当者とともにリスク確認の訪問活動も行いました。

●**農業経営管理支援の強化**  
経営分析14経営体 (10経営体)  
青果部会員や水田経営法人を対象とした経営分析を実施し、結果の説明、アドバイスを行いました。  
経営分析職員の育成を目的とした研修会、システム講習会を実施しました。

## 自己改革内容

# 新たな担い手の育成や担い手のレベルアップ対策



## 取り組み成果 ( )は平成28年度計画

●**新規就農者・農業後継者に対する支援 支援人数6人 (4人)**  
大垣市のイチゴ生産者1人、海津市のトマト生産者3人に対して、就農地の斡旋や栽培用ハウスの建設など、就農準備にかかる支援を実施しました。  
新規就農のきっかけ作りとして、各区域で「帰農塾」を開講し、基礎的な野菜づくりの学習会、作業体験を行いました。  
※品目はブロッコリー、キャベツ、スイートコーン、ナバナ、甘長ピーマン、エダマメ、シュンギク、レタスなど。  
帰農塾の参加者の中から2名が、青果部会(ナバナ)の新規会員として加入されました。

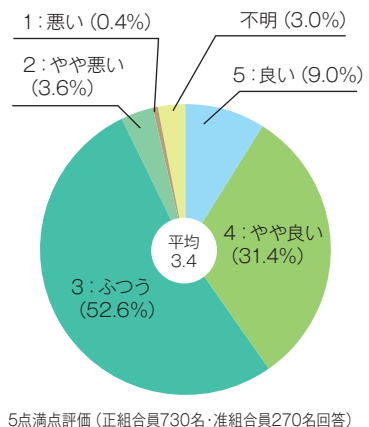
●**集落営農の法人化・担い手経営体の再編 集落営農の法人化12集団 (5集団)**  
集落営農組織の法人化に向け、説明会に参加するなど設立に関する支援を行いました。  
その結果、神戸区域(1)、安八区域(3)、海津区域(4)、養老区域(1)、不破区域(3)の合計12集団が農事組合法人となりました。

## II

# 総合性の発揮による地域の活性化

## 自己改革内容

# JA活動を通じた地域コミュニティの活性化



## 取り組み成果 ( )は平成28年度計画

●**支店協同活動の実践 13グループ開催 (15グループ開催)**  
地域や小学校と連携し、サツマイモの収穫体験や稲作体験、河川クリーン活動などを行いました。

●**JA食農教育活動の実践 参加延べ人数3,898人 (3,187人)**  
女性部の「ふるさと隊」やTACが中心となり、小学校への出前授業(豆腐作り)をはじめ、幼児・保育園児を対象にした農業体験、次世代親子を対象にした農業体験「ふれあいキッズ」などを行いました。

●**JA高齢者福祉活動の理解促進 学習会の開催1回 (1回)**  
健康寿命延伸につながる学習会「健康セミナー」を開催しました。

●**「地産地消」を主体とした女性部活動の展開 活動回数20回 (8回)**  
米の消費拡大運動として、各区域で生産者との交流会を行い、320名の参加がありました。  
おにぎりレシピのアイデア料理コンテストを行い、106通の応募がありました。

●**地域とのつながり強化と仲間づくり 活動回数146回 (114回)**  
「仲間づくり」の場の提供として、フリーマーケットや地域の清掃活動、支部オリジナル活動に取り組みました。